会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和元年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 令和元年8月19日（月）10:00～13:00 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル貸会議室【3F H-5】 |
| 出席者 | 委員：植上一希、佐藤昭宏、小田茜、  事務局：飯塚正成  オブザーバー：疋田、丹田  （合計6名） |
| 議題等 | ○目的  ・研修内容等、高知をふまえ、岡山に向けて改善  ・9月に向けて基礎編の完成（パワポや資料の修正）  ○飯塚さんから（高知研修コメント）  ＜１時間目部分＞  ・時間についてはかなり改善されたように感じたが、現場の教員からはワークの時間にもう少し余裕が欲しいとのこと。  ・受講者から：初めのアイスブレイクの必要性は？（グループ内がほとんど知り合いのなかで）  →アイスブレイクの形を変える、もしくはアイスブレイクの説明を丁寧におこなう必要があるのでは。  ・受講者の属性がまちまちであった（IT、医療、ホテル等）。  →属性にあわせてアイスブレイク等を工夫する必要があるのでは。  　また、編成するチームの構成員によって意見に差がある。  ・教材の作り方として、ppt中心に進められているから、今年度についてはpptの教材でいいのでは。教材の形式を冊子形式にするのかppt形式にするのか。  →冊子についてはワーク集にして教材をpptにする、もしくはpptのなかにワークの枠を入れ込むか。  ・教材のストーリー部分はビジュアル（ざっくりとしたイラスト）にしてもらうとより想像しやすいのでは。  ・講師陣（教務主任を想定）が変わった際に同じように講義できるのか、パッケージを意識したものを。  ＜２時間目＞  ・１時間目と２時間目の接続に違和感がある、確認が必要。  →pptにしても教材にしても。第2章については再構成が必要（根本的に変えた方がいいのでは）。  ・ワークがあると分かりやすい、言葉だけだと負担がある。  ・多様な能力とスキル、コンピテンシーの流れについては逆にすると分かりやすいのでは。  →専門学校教育的にコンピテンシー部分は強く意識した方がいい。  ・各チームに分散させたときにチームの属性がある程度パターンが想定できるのでは。パターンを想定した編成、オーダーが必要？  ＜３時間目＞  ・３時間目にポスターを用いたワーク（他チームのポスターを見て回る）をした際にチームやメンバーによってばらつきが出ていた。  　他方、属性を意識することで受講者が多様な意見を拾い上げることができるのでは（管理職の意見等）  ・受講者から：研修としては非常によかったものの、自分たちの分野特性にあったものや実践的な研修になるといい（評価方法を知る、知識を得る段階はクリアできた？）。  ・チームの特性をチームメンバー内で意識してワークをしてもらう。発表の際にはそのチーム特性他の受講者へ公開してもらうといいのでは。  ・地域性や学校の特性によってグループ編成の工夫がいる、もしくはそれらの状況に即した形で分析していく、汎用性の高いワークも準備する必要がある。  ○飯塚さんコメントをふまえて  ・１、２時間目は多様なグループであると様々な意見や状況を知る機会になり得るが（アイスブレイクを含めて）、３時間目は属性（学科もしくは職位？）を意識したグループ編成、ワークをするといいのでは。  ・授業改善については同じ学科同士でできた方がいい。  →これまでのワーク（他校での研修）の蓄積を紹介すると少人数でも実施しやすいのでは。  ・少人数体制の学科に起こりやすい固定化した教育を改善するためにも、ある程度の規模を想定した研修づくりを行わないと収拾がつかないのでは。  ○植上先生から高知研修と資料について説明  ○佐藤さんから資料と修正版pptについて説明  ○説明をふまえて  ・大まかな方向については賛成。他方、他者に見せるためのpptであるため、受講者側に負担があるのでは。  ・アイスブレイクの三角柱に書く「やりがい」については、新任教員が対象のため、難しいのでは。  ・高知研修で1時間目のワーク3つは重たいように感じた（導入が長かったこともあるかもしれないが）。  ・ppt19枚目「学生の反応がいいとはどういうことなのか」といった小さな点についても、言語化していくのもいいのでは。教員側の細かい気づきや疑問をグループで共有できるといい。  ・２時間目のスキルとコンピテンシーを評価するという点、ppt66枚目の理解と説明が難しく感じた。Q10のワークも交えると分かりやすいのでは。  →コンピテンシーについてはほとんどが民間企業のものに沿っている（レベル的にも）。そのため教員側が測りたいものを言語化してはかる方がいいのでは。教員の悩みを含めながら自分たちで作るトレーニングを学ぶという形にするといいのでは。  ・１、２時間目は形成的評価や相対的評価総括的評価といった評価の話を行うため、３時間目でコンピテンシーの話にいくとそれらの道具をあまり使わない形で話が進むことになるのでは。  →条件を設定してしまうのはどうか。  →もう少し具体化すると分かりやすいのでは。学校が掲げている理念やポリシーを分解してもらう。（ポリシーが脆弱な場合は資格取得に関する教育以外を埋めるものという形でも。）もしくは事例をあげると分かりやすい？（ゴールがわからないところが難しい他方で職業教育の強みでもあるのでは。）１、２時間目から３時間目に頭を切り替えるために補助線を出す必要がある。  →３時間目はデータから入ってワークの流れの方がスムーズにコンピテンシーの話に繋がるのでは。  ・ppt65枚目の表が分かりにくいため説明しにくい。どういうイメージでこの表を作成したのか。  →資格や検定は数値化しやすいもののコンピテンシー（技能として分類されている以外のもの）といった資格プラスアルファの部分が大事になっているという話。この表についても書き換え。  ・pptの情報量の多さが気になる  ・ppt67枚目はグループワーク？個人からグループ？個人で要求するには難しいと感じる。同質な教員集団でおこなってもらう方がやりやすいのでは。  →付箋を使って個人で出してもらいグループで分類してもらう形式。もしくは2軸の基準で類型化してもらう→右上に出たものを書いてもらう、等、講師側がコントロールする方がやりやすいのでは。  →最優先は言語化作業であるため、言語化作業がやりやすいシンプルな方法がいいのでは：付箋と模造紙を使ったグルーピングがいいのでは。表ではない形にするのはどうか。  →こちら側からコンピテンシーの一部を指定し（例えばコミュニケーション力）、それを具体的に落としてもらう、言語化作業をしてもらう。  ○先方（岡山）に準備してもらうもの  ・A4用紙  ・配布資料は前日までに送付 |

以上